



セカイを科学せよ!

やすだかな
安田夏菜作

うちださなえ
内田早苗絵

こうだんしゃ
講談社

俺の両親は、日本人とロシア人。見た目で目立つのは避けられないから、周りに合わせ、無難に生きてきた。本当は虫が好きだったことも封印していた。なのに…。

中二の新学期、転校してきた山口アビゲイル葉菜は、すべてが規格外。科学部で生物班を復活させ、「蟲」を飼育し始めた。俺は目立ちすぎる山口さんを遠ざけていたが、その「ムシ愛」に影響され、ともに生物班存続のための研究をすることに。

これは、俺が他人の言うことにとらわれない生き方を取り戻す物語。

